

## 卒業研究中間発表会について

以下の通り、卒業研究中間発表会を開催する。よく読んだ上で、準備を進めること。

日時：2015年7月25日（土）**8:50集合**（出欠をとる）

場所：豊洲校舎教室棟5階

1 班：505教室（Chair 久保田先生）、2 班：507教室（Chair 広瀬先生）

3 班：508教室（Chair 行田先生）、4 班：509教室（Chair 堀口先生）

※ 班分けは、別資料を参照のこと

※ 交通機関の遅延の可能性も見込んで、十分に余裕を持って来ること。

### （1）プレゼンテーションの進め方

PCを用いた発表 8 分、質疑応答 4 分（持ち時間 12 分）

どのような内容をプレゼンテーションスライドに記載するかは、指導教員とよく相談すること。

プレゼンテーションスライド構成例

表紙・・・研究テーマ、学籍番号、氏名、研究室名

-----

#### 1. 研究の背景

本研究課題を選択することになったきっかけ。

#### 2. 研究の目的

何が問題でどこまで明らかにするのか。関連研究、何が新規性か。期待される有効性は何か。

#### 3. 研究の方法

どのようなアプローチで研究を進めるのか。

#### 4. 評価方法

どの点に関してどうやって有効性を評価するか。理論的手法、実験的手法、評価結果。

#### 5. 研究計画

2月初旬の発表までに、どの期間に何をやるか、表にまとめる。

#### 6. 現在の進捗

目的・研究計画に対して何がどこまで達成されたか、ぶち当たっている壁は何か。

#### 7. まとめと今後のアクション

最後に一言「ご傾聴ありがとうございました！」

### （2）発表資料の提出方法

**7月24日（金）23:59**までに「（3）共有フォルダ情報」で指定するフォルダにプレゼン用ファイルを提出する。ファイルは、Microsoft PowerPoint 2013で実行可能なファイル、またはAdobe PDFファイルとする。それ以外のファイルを「持ち込みPC」で扱いたい場合は、（8）項を参照すること。

**注意：**提出フォルダに入れたはずのファイルが本番の教室PCで開かないトラブルがたまに発生している。開かないファイルはサイズが0バイトになっていることが判明しており、対策として、標準以外の特殊なテーマを使うのを避け、さらに提出したのち、ファイルサイズが0バイトでないことを確認すること。

### (3) 共有フォルダ情報

豊洲校舎の授業用フォルダ

¥¥share.sic.shibaura-it.ac.jp¥ShareFolders

にアクセスして、所属する班のフォルダにプレゼンテーションファイルを各自提出する。

¥2015¥豊洲卒業研究 - 3113300120¥提出用¥1班

...

¥2015¥豊洲卒業研究 - 3113300120¥提出用¥4班

### (4) 発表資料のファイル名

「学籍番号+氏名」の形でファイル名を付ける。例えば、学籍番号「AF12003」、氏名「豊洲太郎」の学生の場合、PowerPoint2013 のファイル名は、

AF12003豊洲太郎.pptx (アルファベットは大文字で)

一度提出したファイルは削除できません。ファイルを更新したい場合は、

AF12003豊洲太郎ver1.pptx

AF12003豊洲太郎ver2.pptx

というようにバージョン情報がわかる形でファイルを追加提出すること。

### (5) 原稿の持ち込み不可

原稿（口頭発表のメモ）を読みながらの発表は厳禁。原稿は、紙はもちろんのこと、PC画面上に表示させることも含めて一切認めない。聴講者の方を向いて発表すること（プレゼンの基本）。

### (6) 質疑応答のまとめ

発表時の質疑応答の内容を当日中に指導教員に提出すること。（他の人にメモを依頼してもよい）

### (7) 入退室について

発表会途中の入退室は認めない。トイレ等は休憩時間に行うこと。

### (8) 持ち込み PC によるプレゼンテーション

PowerPoint2013 あるいはPDF ファイル以外のファイルでプレゼンを行う場合、また、デモの都合上、特殊なPC 環境が必要な場合は、以下の条件を守れる場合に限り、PCの持ち込みを認める。

- 前もって各班のChairの許可をとる。
- 前日までに当該教室で持ち込みPCの事前テストをしておく。
- 万一の備えとして、教室設置のPCで発表できるように、通常通りの準備をしておく。本番で、持ち込みPCの操作に一度でも失敗したらすぐに教室設置のPCでのプレゼンに切り替える。

### (9) その他の注意

- 発表会では、自分の発表だけに集中するのではなく、他の人の発表にも耳を傾けて積極的に質問やコメントをするよう心掛けること（質問者を指名する場合あり）。
- 例年、自分の研究に関わる基本的な背景や知識（専門用語など）について尋ねられても説明できない人を見かける。曖昧なところが残らないよう日頃議論し合うなどして準備すること。

### (10) 評価について

中間発表では、別紙の評価基準に基づき各班担当教員が評価し、最終成績を決める際の参考にする。

以上